

令和2年度大分県公民館テーマ別研修会① アンケートまとめ

【研修1】

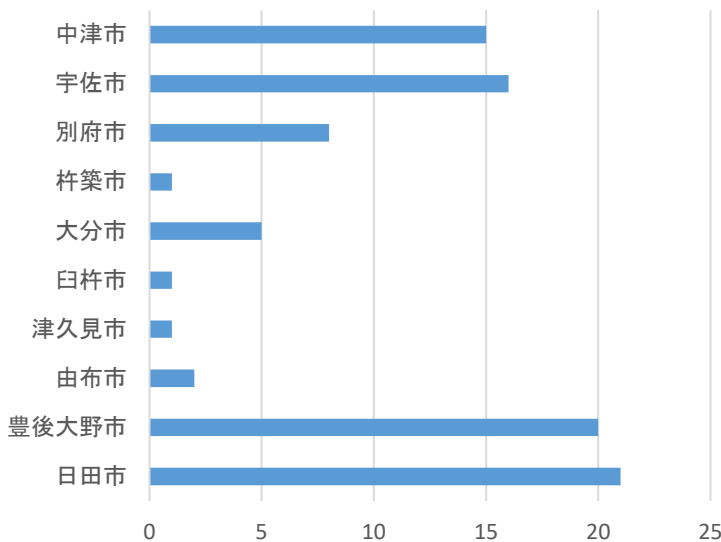
- 講義 公民館の役割について
- 講師 大分県教育庁社会教育課
主任社会教育主事 小長和宏

【研修2】

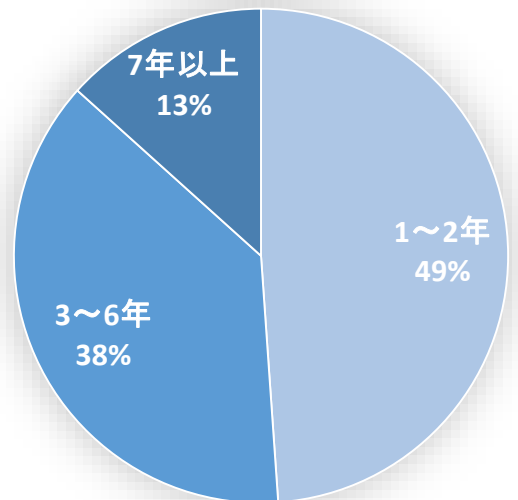
- 講義 人権尊重のまちづくり
- 講師 大分県教育庁人権教育・部落差別解消推進課
主任社会教育主事 秋吉邦治

1 受講者属性

市町村別受講者数(人) ※アンケート提出数=90人

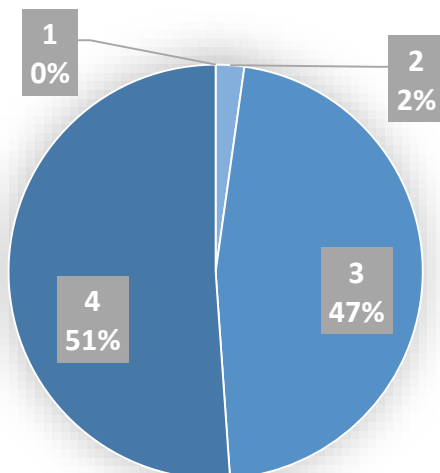


職員経験年数別内訳

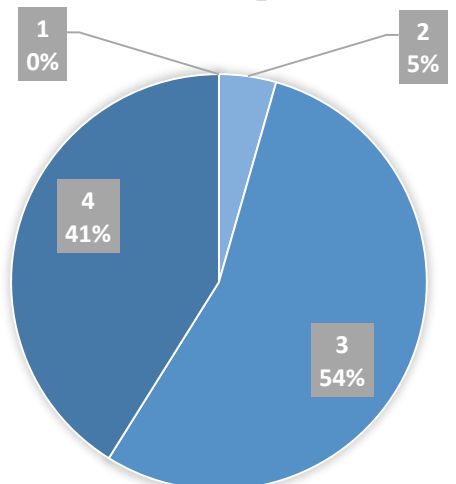


2 研修目的に対する達成度について ※低い=1～高い=4 までの4段階評価

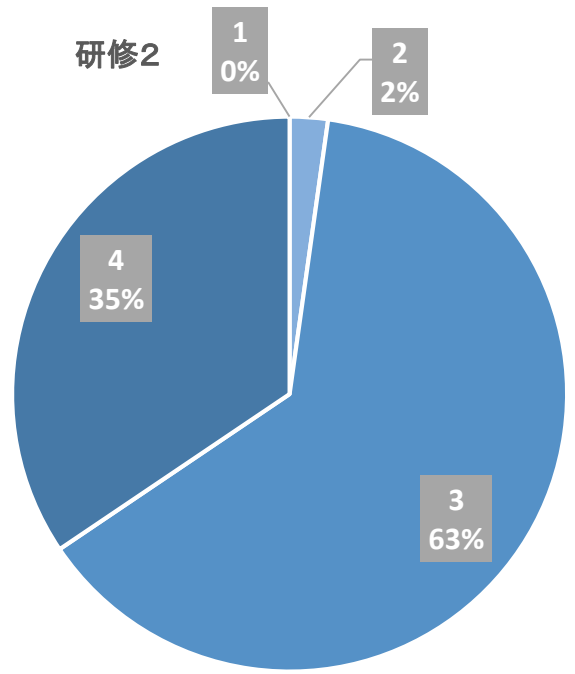
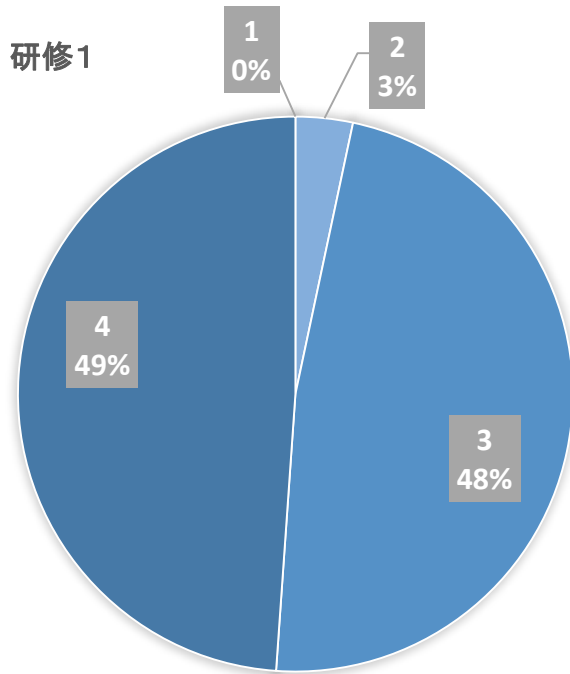
①公民館の役割と機能を理解できた



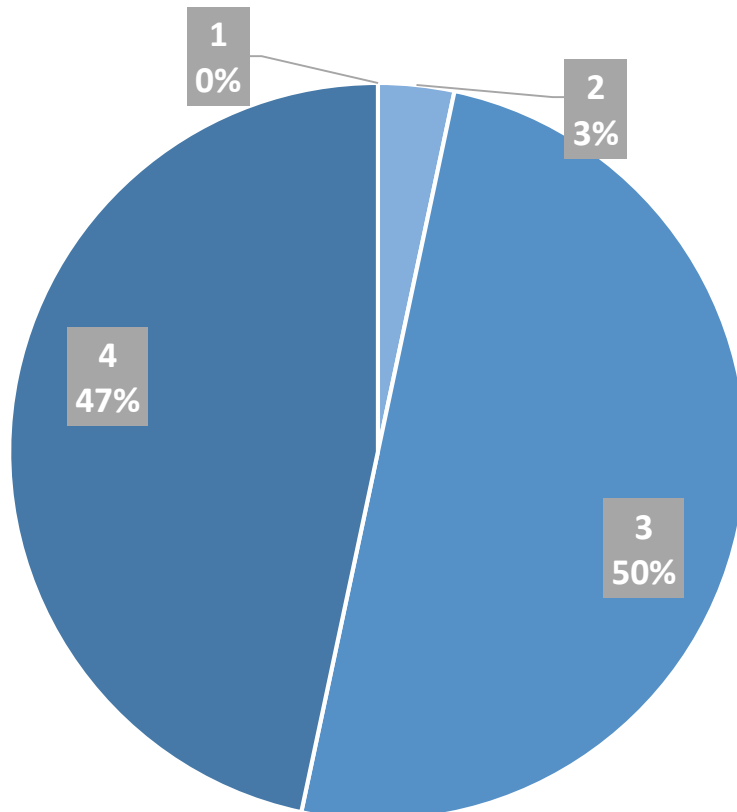
②公民館職員としての人権感覚を養うことができた



3 「内容のわかりやすさ」「満足度」「業務にいかせるヒントがあったか」について ※ 低い=1 ~ 高い=4 までの4段階評価



4 全体を通しての評価について ※低い=1~高い=4 までの4段階評価



研修1 に対し心に残ったことや業務にいかせるヒントなど(自由記述)

- ・ 公立公民館の専任職員として、住民の課題解決のための学習内容や場を提供していかなくてはならない
- ・ 住民主体の公民館活動へと意識の転換を図りたい
- ・ 公民館館長として、その専門性を養っていくことが大切だと感じた
- ・ 法律に基づく公民館の役割及び理念を学ぶことで改めて基本に戻ることができた
- ・ 主体的、積極的な地域活動を進める中で、輪作りの重要性を学ぶことができた
- ・ 公民館の役割について、法的・歴史的によく理解できた
- ・ 日常業務に加え、地域に必要な何かを始めてみることに挑戦していきたい
- ・ 自分一人ではがんばってもだめ、人に出会って専門職になる、に納得した
- ・ 地域の公民館の在り方が良くわかった
- ・ 公民館活動で多くの人と接して、皆さんの役に立てるよう努力していきたい
- ・ 相互教育の実践により地域住民とつながりを作していきたい
- ・ 公民の意味を単なる選挙資格だけで理解するのではないことに気付かされた
- ・ 人に出会って専門職となる、が心に残った
- ・ 公民館の役割を改めて確認でき、生涯学習の地域ステーションとしての役割を今後も果たしていきたいと感じた
- ・ 参加者との出会いや活動を一緒に企画運営していくことの大切さを再確認した
- ・ 公民を育成する学びの場であるか、と考えさせられた
- ・ 今後の公民館活動で、参加者が主体的に参加できる会の持ち方について考えていきたい
- ・ 寺中作雄氏の「公民館の建設」は古くもあるが、新鮮に感じられた
- ・ 人に出会って専門職になり、センス・スキル・マインドを高める必要性に強く同感した
- ・ 正規職員を置かないと、本当に充実した活動は難しいのではないかと感じている
- ・ 公民館の歴史を学ぶことで、その役割を知ることができた
- ・ 人との出会いによって育てられていく、という感覚を関わっている方々に持ってもらえるよう努力したい
- ・ 公民館職員としての意識を高めることのできる研修でした
- ・ 地域の方々とたくさん出会い交流する中で、公民館職員の在り方を考えることが大切だと感じた
- ・ 地域住民の学びの支援という意識を大切に、今後の講座企画を考えていきたい
- ・ 公民館が、住民が集いゆっくりと話ができる場所、住民同士の顔の見える場所になっていくとよいと思った
- ・ 社会教育のフィールドにいる職員として、住民が抱える悩みや思いに触れ、マインドを高めていける職員でありたい
- ・ 公民館職員は地域の人に出会って専門職となる、はまさしくそうである
- ・ 生涯学習を個人の自由としてのみ考えるのではなく、公民館が学びのサポートをする必要がある、と捉えなおした
- ・ 現場の実践は、職員個人の資質に負うところが多く、組織的な人材育成システムが必要だと思う
- ・ 公民館の存在意義を考える上で参考になった
- ・ 人口減少・少子高齢化の急激な進行により激変している地域社会で、公民館の役割はやはり大きいと感じる
- ・ 住民自治の実現に向けた歩みを進めていきたいと思った
- ・ 今後、学びの中心に据えていかなければならない人々について、改めて考え直す機会となった
- ・ 初心にかえる、ことの大切さを改めて感じることができた
- ・ 地域課題は地域住民からしか知り得ないものであり、自治会長や地域の声をもっと聞くことが大切だと感じた
- ・ これからの時代、公民館もこれまでの常識にとらわれない大胆な発想で新たなチャレンジをしていく必要があるのではないかと思う
- ・ 地域の課題や人々のニーズを探り、それに応えていく事業を企画することで住みよいまちづくりを推進していきたい
- ・ 寺中作雄氏の事を初めて知り、公民館の話をするときに彼のことを話題にしたい

研修2 に対し心に残ったことや業務にいかせるヒントなど(自由記述)

- ・安心して住める地域づくりのために、人権についての正しい知識やバランスの良い人権感覚をもつための学習が必要だ
- ・小さい頃から「相手の立場に立つ」という学習の場が繰り返し必要である
- ・差別をなくすためには、知的理解を深め人権感覚を養うことが肝要である
- ・人権尊重のまちづくりについて、「つどう、まなぶ、むすぶ」に視点を置いた説明がわかりやすかった
- ・地域住民が理解と納得できる活動継続の必要性を学ぶことができた
- ・部落差別解消推進法の趣旨が改めて確認できた
- ・フィールドワークや映像の視聴について、具体的に教えてもらいたい
- ・公民館の役割「まなぶ、つどう、むすぶ」からどのように人権に結び付けるか考える機会になった
- ・奥の深い部落差別問題を分かりやすく説明してもらい大変勉強になった
- ・まず自分自身が多様な価値観にふれ、思い込みや偏見に気づけるようにしていきたい
- ・人権問題への関心が少ない実態は、いざ身の回りに差別問題が生じた時の脆弱性につながる
- ・正しい知識とは、自らの学習によって培われるものであることを再認識した
- ・公民館は学びの場であり、地域住民が人権について正しく学べる場とならねばならないと感じた
- ・基本的な学習内容を再確認でき、啓発・研修の大切さを実感した
- ・人権の知識と感性を学び続けることの大切さを感じた
- ・相手を認め自分の事も好きになれる意識はとても大事だと思った
- ・公民館活動で年1回の人権講座を開催しているが、継続していくことの大切さを感じた
- ・公民館活動を進める上で、人権尊重という意識を持つことの大切さを感じた
- ・「つどう」ことにより、多様な価値観に触れることができ、自己変革につながるのだなと感じた
- ・人権教育については、あいさつなど折に触れて話題にしていかななくてはならないと感じた
- ・依然として残る部落差別の現実を具体的に知ることができた
- ・部落差別解消推進法について知りたかったのでよい研修になった
- ・人権問題の講座を、参加者同士をむすぶ場としていくことができるよう考えていきたい
- ・毎年、人権講座をうけているが、部落差別は根深く存在しており、多くの人が学べる環境づくりをしていかなくてはならないと感じる
- ・お互いを認め合う関係づくりのための正しい知識や人権感覚について、繰り返し学んでいかないとけない
- ・人権講演会や研修会に参加したことがない、という人が半数近くいることに驚いた
- ・人権啓発を進めていく上で、座学で終るのではなく、学習者同士の交流の場を持ちたいと考えていたのでとても参考になった
- ・インターネットやSNS上での差別が増えている現状を学ぶことができた
- ・人権尊重のまちづくりのために、住民と共に自分自身も正しい知識と人権感覚を養っていくことが大切だと感じた
- ・人権問題に関心がない、人権研修会に参加したことがない人の多い現状を考えると、人権問題学習の在り方を再考していく必要があるように思える
- ・人権問題をテーマにしたセミナーを開いても、同和問題に踏み込んだ内容になっていないことが多い現状を変えなければならない
- ・ネット差別の怖さを身にしみて感じ、多くの人が正しい知識を身に付ける必要があると感じた
- ・どのように学習を進めれば人権意識が高まるのか、今までとは違った工夫が必要だと思う
- ・コロナ禍の中、病気になること以上に差別される事を恐れているという状況があることに、これまで行ってきた人権学習の成果がどうであるのか、心配されます
- ・人権への尊重意識では肯定が多いが、学びについての関心や経験がないことに対し、危機感を覚える
- ・人権の研修が、虐待や女性差別等に拡大しているのは良いことだが、部落差別がないがしろにされてはならないと強く思う
- ・人権問題は非常に根深く、なかなか浸透しないが、今後も根気よく継続していくことが一番重要かと思っている
- ・インターネット上での差別問題と、人権に関する研修会・学習会に一度も参加したことがない人への研修の2つを今後の取組課題としていきたい
- ・昨年同様に、ではなく、昨年より深みのある学習という切り口で人権学習を実施したい

研修を受けた感想、意見等(自由記述)

- ・ これまで、主事という公的資格ではない事に若干とまどいがありました。研修を受講して今後すべきことがわかったように思います。
- ・ 公民館の主事として、これから何をしていくのか、地域の方のために何ができるか考えさせられた。
- ・ 程よい時間で集中して聴けた。また、講師と1対1となり、参加意識が高かったと感じた。
- ・ 講師の顔が見え、違和感なく研修を受けられた。
- ・ ポイントを絞った分かりやすい内容であった。
- ・ 受講者のペースで学べること、繰り返し視聴できる点など有用なことも多かった。
- ・ 一度では理解しづらいところや聞き逃したところを再度聞き直し、理解を深めることができた。
- ・ 個人的には対面での講座を受けたいと考えるが、このような形も良いと感じた。
- ・ コロナ禍での研修として、また、移動もなく職場で受講できるという点でとても良い。
- ・ 今後、演習をオンライン方式で実施できるようになると良いと思います。
- ・ 研修内容は初歩的であったが、時間的にちょうどよく、また講師の話もわかりやすかった。
- ・ 今回は異例という形式であったが、今後この形式が通常になっていくのではないかと思う。
- ・ 自分で時間を見つけて受講できた。集まっでの研修と今回の研修と、目的や内容によって併用できると良い。
- ・ 自分のペースで受講でき、大勢いる中で聞くよりも集中できた。
- ・ 都合の良い時間での視聴、繰り返しの視聴ができる点が良いと思う。
- ・ コロナ後、遠隔研修が主体となっても良いのではないか。
- ・ 視聴するまではあまり期待していなかったが、このような研修も良いと思える内容だった。
- ・ 研修テキスト、資料、スライド画像が添付されており、理解が深まった。
- ・ 職員数が限られ、なかなか研修に参加できない実情の中、このような研修であれば受講しやすいと感じた。
- ・ 現在でも差別が存在していることに心が痛みます。差別のない日常が当たり前の時代にならなければならないと感じた。
- ・ 今後も積極的にネットを活用した研修を取り入れて欲しい。
- ・ 何度も見返すことで聞き逃しがなく、話の内容が十分に伝わって良かった。
- ・ 途中で動画を止めて資料を読んだり、関連項目を検索したり、自分のペースで受講できて良かった。
- ・ 講師の声が小さく聞き取りづらかった
- ・ インターネット研修であっても、会話形式で研修が受けられるようになると良いと思う。
- ・ 双方向のやりとりがあると良いと感じる。ひとりで画面に向かうさみしさは何とも言いがたい。
- ・ 今回の研修の効果はとても大きいものだと感じる。ただ、意見交換の場がないので広がりという点が課題である。
- ・ インターネット研修は、機器を十分に揃えることでより効率を上げることができる。今後の課題である。
- ・ 新型コロナ対策として、インターネット研修は良い方法であるが、職場で集中して受講するのは難しい面もある。
- ・ 従来の研修に比べ、画面を通しての研修は内容が入ってきにくいと感じた。
- ・ 自宅で好きな時間に視聴できてよかった。できたら、公民館で見れると更に良いと思う。
- ・ 個々のパソコンで、業務の合間に受講することになり、内容が途切れ途切れとなり、あまり集中して受講ができなかった。
- ・ 研修動画をダウンロードできるようにしてもらいたい。
- ・ 各地・各館での事業を題材に、事業展開をしていくためのヒントとなるようなネット配信講座に取り組んで欲しい。
- ・ 意見交換ができず、一方通行になってしまう。学習を深めるために、やはり双方向のやりとりができると良い。